

(国語)

「自分の思いや考えを豊かに表現する子どもを育てる国語科の研究」

～考えを交流する力を育てる指導法の工夫を通して～

大阪市立西九条小学校

1. 研究主題設定の理由

本校では、自他のよさを認め合い、互いに尊重しようとする「豊かな心」を持つとともに、課題の解決や実現に向かって最後まで粘り強く努力する、「たくましく生きる」子どもの育成をめざしている。平成23～26年度は、「学級活動の話し合い活動」について研究を重ねた結果、集団活動を通して身の回りの課題に対して、子ども一人一人が自分の意見を持ち、話し合い活動の中で意見を述べたり、友だちの意見を聞いて話し合いを深めたりする態度が育ってきた。4年間の研究の中で学級活動におけるコミュニケーション能力の育成という点で一定の成果を上げることができた。

平成27年度からは、言語活動を充実させ、コミュニケーション能力のさらなる向上をめざして国語科の研究に取り組んだ。研究主題を「自分の思いや考えを豊かに表現する子どもを育てる国語科の研究～「読む力」を育てる指導法の工夫～」と定め、子どもに基礎的な「話す、聞く」力を付け、主体的に解決していく実践に取り組んだ。2年間の取り組みの中で、文章に書かれていることを正しく捉えたり、登場人物の気持ちの変化を読み取ったりすることができるようになった。しかし、読み取る力や自分の考えを表現しようとする力には、まだ個人差が見られる。また、交流する活動では、自分の思いや考えを伝えるだけの一方的な活動になってしまう場面が見られた。そこで、昨年度より子どもが主体的に取り組む、話し合い活動を通してより自分の考えが深まる指導をめざし、研究を進めてきた。本年度は、それぞれの考えを双方向に伝え合うことができるような交流活動を工夫することにより、交流したことを生かして自分の思いや考えを豊かに表現する力を付け、「国語の学習は楽しいな。」とともに学ぶ喜びを感じる子どもを育てることをめざして研究を進めていくことにした。

2. 研究の内容

(1) 研究の視点

- ①基礎・基本を身に付けるための手立ての工夫
- ②主体的に学び、互いに考えを交流する子どもを育てるための授業づくりの工夫
- ③読書活動の充実

(2) 研究の方法

①基礎・基本を身に付けるための手立ての工夫

子どもに話す・聞く力を付けるため、声の大きさ、話し方、聞く姿勢などを普段から徹底して指導する。また、子どもが言語力を身に付けるには、継続的な反復練習が必要であることから、国語科の学習だけでなく朝の学習や朝の会、終わりの会、隙間時間を活用して、子どもの実態に応じた手立てを行う。

②主体的に学び、互いに考えを交流する子どもを育てるための授業づくりの工夫

- ・「説明文教材」を取り上げ、「読みの観点」の習得をめざす。
- ・教材分析を通して教材文の構成を捉え、付けたい力とその系統を明らかにする。
- ・単元の構成

- ・交流の場の設定

③読書活動の充実

- ・環境の整備
- ・図書委員会や学校図書館補助員による読書支援活動
- ・朝の読書タイムと読書ボランティアによる本の読み聞かせ（毎週金曜日）
- ・読書のめあての設定と読書貯金
- ・此花図書館との連携
- ・住吉おはなしサークル「シフカブールカ」によるおはなし会

3. 研究のまとめ

（1）研究の成果

①基礎・基本を身に付けるための手立ての工夫

「読む」「書く」「話す」「聞く」といった国語科の基礎・基本を身に付けさせるために、音読・詩の暗唱・日記指導・朝の会、終わりの会でのスピーチ・読み聞かせなど、国語科の授業以外の場でも、日常的に子どもの実態に応じた手立てを行った。国語科の授業においては、特に書くことを通して、一人一人が課題に向き合うことができるような各学年・各単元に応じたワークシートを工夫した。このことが自分の意見構築につながり、発言への足がかりにすることができた。

②主体的に学び、互いに考えを交流する子どもを育てるための授業づくりの工夫

単元ごとに、子どもに付けたい力は何かを明確にして、子どもが主体的に解決していけるような課題を設定し、学習の見通しをもてるように工夫した。そのために学習指導計画を子どもの学習活動が単元を通して一貫した流れになっているように作成した。その際に、ワークシートやカード、リーフレットなどの教材を工夫したり、タブレット端末を使用したりすることによって子どもが学習内容に興味・関心を持つことができた。

③読書活動の充実

学校生活の中で、子どもが読書に親しむことができるような場の設定を積極的に行った。学校図書館の図書の種類や冊数を把握して整理し、子どもが利用しやすいように整備する。教科書の教材につながる関連図書もわかりやすく並べ、並行読書や調べ学習などの学習に活用できるようにした。また、学級文庫の充実を進め、読書タイムや雨の日などに読書ができるように整備した。

（2）今後の課題

- ・なぜ自分はそう考えたのかという理由を一人一人にしっかりと考えさせ、ワークシートに書かせたり、発表させたりすることが大切である。低学年のときから意見を言うときには、指導者は、「どうしてそう思ったの」と聞き、根拠を一緒に言わせる習慣をつけるようにする。
- ・ペアやグループでの話し合い活動の場では活発に意見交流をすることができるが、まだ全体での意見交流を活発にできるまでには至っていない。友だちの意見を聞いて自分の考えを練り直したり、どこが違うのか、なぜ違うのか疑問を持ちながら聞くことができるよう指導をしていく。また、読み取りながら同時に話し合う活動を入れたり、子ども同士で意見をつないだりすることができるよう指導をしていく必要がある。